

地理空間情報を使った、地域版SDGs達成に向けた生態系サービス評価のシナリオづくりと普及啓発 —Evidence!に基づいた計画、評価、モニタリングの主流化のために—

活動地域  日本全域

ひろげる助成

4年目

知識の提供・普及啓発

講習会や勉強会
実施回数

6回

講習会や勉強会への
参加者人数延べ

155人

今年度計画の達成度

98%

目標達成度

90%



第2回富士宮市OECM勉強会実施の様子

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルスの影響を考慮し、講習会や勉強会を対面もしくはオンラインで実施するか、延期にするかを早めに判断し、内容や進行方法を臨機応変に変更する必要があったこと。

■工夫した点

対面で実施した講習会では操作実習を、オンラインで実施した勉強会ではGISの活用方法についての議論をメインとし、実施方法に合わせた内容で進行した。

課題

生物多様性や生態系サービスの保全のための、「意思決定が地域単位で行われるための資源」、「データや情報を利用するためのツール」、「人材」が不足していること。

目標

生物多様性や生態系サービスの保全のための「人材育成とネットワーク形成」、「データや情報を利用するためのツール」、「情報資源」が充実すること。

活動内容と成果

GISに関する講習会や勉強会を計6回実施した。うち2回は今年度から新たに関係を築いた組織での講習会であり、「GISを目標設定に活用するための考え方」や「基礎的な技術」の講習を行った。他4回は、昨年度までの基礎的な技術講習に続き、次のステップとしてテーマを定めた勉強会を実施し、地域のネットワーク強化を目指した。実施した勉強会のテーマはOECMやタンチョウ、ワシなどとし、課題に関係するステークホルダーを巻き込んだ内容とすることで、より具体的に現実的な情報共有や課題整理を実施することができた。



GIS個別実習実施（対面）の様子

全助成期間の活動を振り返って

自然情報が地域で活用されていくための情報整理の支援や人材育成を目的とした「GIS講習会」や「個別実習」を日本各地で実施し、継続的に支援を行った。本講習会や実習の実施に当たって、地域のネットワーク強化を意識したことで、関係者間での情報共有やGISの考え方、操作技術が向上した。また、環境情報やGISに関する教材を作成し、それらを閲覧できるウェブサイトを開設したことで、広く情報提供する基盤を整えた。



活動について関係者と議論をする様子

〒060-0809

北海道札幌市北区北9条西4丁目5-2

電話：011-726-3072

E-mail：kudo@env.gr.jp

HP：http://www.env.gr.jp/



今後の
展望

本プロジェクトを実施したことで「データや情報を利用するためのツール」の有用性が浸透し、「人材の育成とネットワーク形成」が進んだ。地域やテーマによって、意思決定が地域単位で行われるための情報資源の共有、情報やツールを扱う人材が不足している場所は数多くある。今後も、本プロジェクトで作成した教材や経験をいかし、国内外問わず、生物多様性や生態系サービスの保全が促進されるよう支援を続けていきたい。